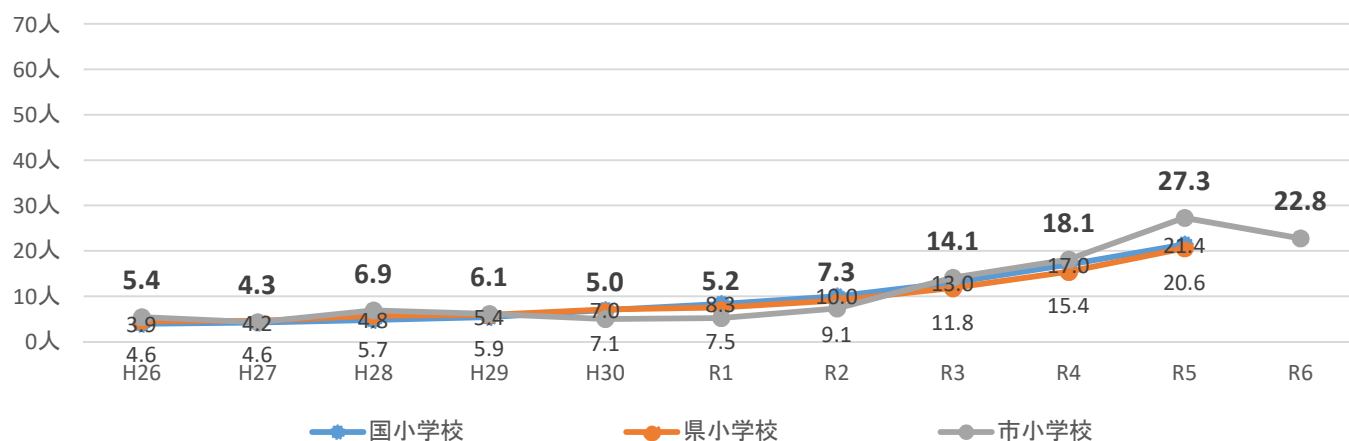


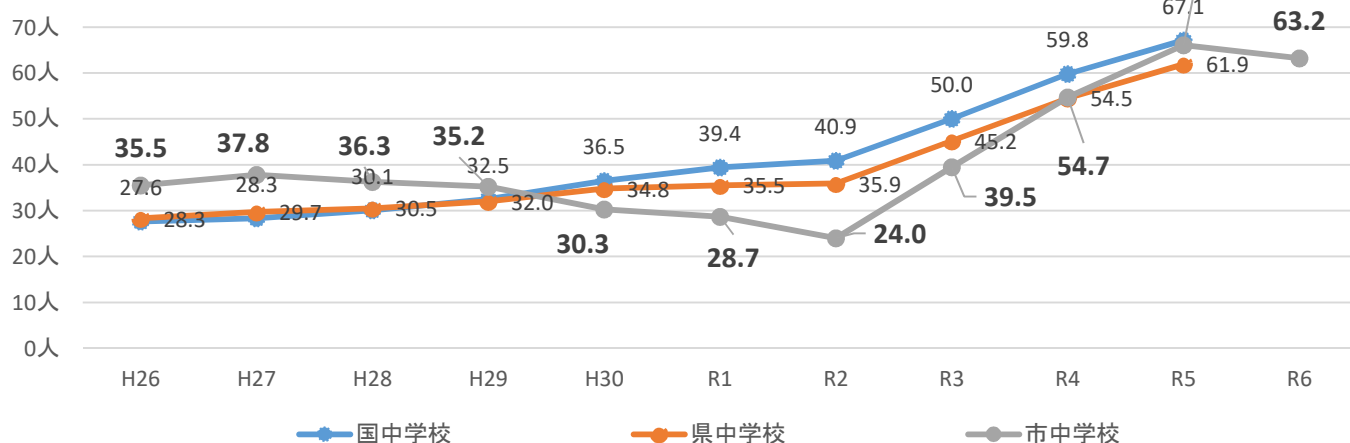
不登校の現状について

【全児童生徒に占める不登校の割合(国・県・市比較)推移 1000 人あたり】

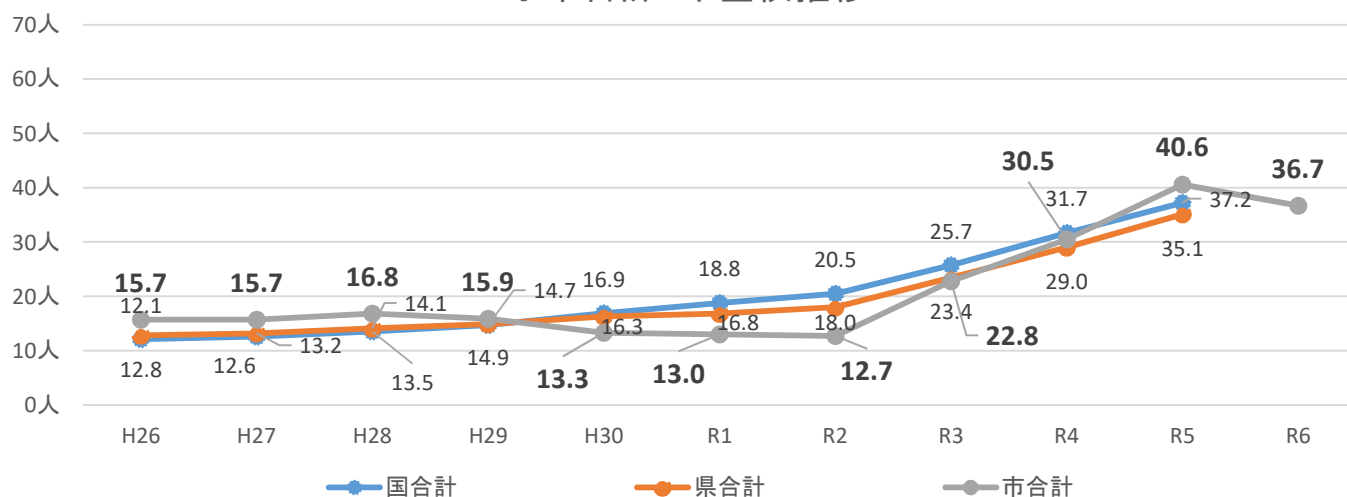
小学校 不登校推移



中学校 不登校推移



小中合計 不登校推移



【本市の不登校支援の取組】

○未然防止・早期支援

- ・令和5年4月に作成、周知した『鈴鹿市不登校支援初期対応マニュアル』に基づき、新たな不登校を生まない取組を全小中学校で推進。
- ・鈴鹿医療科学大学と連携し、教職員のアセスメント力向上のための実践研修会を実施。
- ・不登校支援アドバイザーが各校の支援部会、ケース会議等に参加し、助言・指導を行う。
- ・スクールライフサポーターを小学校 22 校に派遣し、不登校傾向の児童の登校支援等を行う。

○教育支援センター(けやき教室、さつき教室)

- ・不登校の悩みを抱える家族の交流会「ほっとさろん」を開催。
- ・市内の各小中学校の校内教育支援センターを訪問し、助言を行う。

○校内教育支援センターの設置

- ・小学校 10 校に「ほっとルーム」、中学校全 10 校に「校内サポート教室」を設置。
- ・令和6年度小学校において、長期欠席児童の割合が減少。
- ・ほっとルーム設置校 10 校のうち、9校で不登校児童割合が減少した。

○学校外の機関との連携

- ・市内4か所のフリースクール等との連絡協議会を開催する。
- ・利用状況や活動内容、児童生徒の情報共有など、学校との連携を進める。

○不登校支援プロジェクト

- ・新たな不登校防止のため、今年度プロジェクト校にて、昨年度欠席が 30 日未満、今年度の欠席が 15 日前後の欠席児童生徒について、「困り感の明確化」「解決像の明確化」をおこない、「肯定的なフィードバック」をおこなう。
- ・「こども支援シート」の情報等をもとに、アセスメント(分析)や支援をおこなう。
- ・第 2 回不登校支援プロジェクト会議にて、取組の経過報告を行う。
- ・第 3 回不登校支援プロジェクト会議では、取組の成果について検証する。